

○ 5月15日(水)

府立学校訪問(京都府立鴨沂高校)



○ 平塚 委員

現在では珍しく、講堂が地上3階にあり、また校内にある優れた美術品や歴史的建造物を拝見させていただき、伝統と歴史のある学校であることを再認識した。生徒たちも穏やかで、活発に勉学やクラブ活動に励む姿を見て、とても頼もしく感じた。

また、戦前に建てられた図書館には6万冊の蔵書があり、古い本が多く残されている。歴史的な文献もあることから、今後これらが有効に活用されることを望む。



○ 上原 委員

鴨沂高校は全面改築を予定していますが、現在の姿を見学するために学校訪問をさせていただきました。

明治5年に初めての公立女学校として設立され、永い歴史と伝統を持つ学校であり、校舎の柱・階段・壁の傷など一つ一つがその歴史を表現しているようでした。しかし耐震性などの解決には改築しかなく、新たな歴史へ進化することとします。この夏から移転などの作業が始まりますが、生徒・保護者・教職員・地域の方々には御理解と御協力をお願いいたします。

○ 5月15日(水)

府立学校訪問(京都府立鴨沂高校)

○ 安藤 委員



鴨沂高校にて、改築予定の校舎、図書館などの学校施設を見せていただきました。

校長先生に案内していただいた3階の講堂の窓からは、西に御所の緑、東に大文字山が見えます。御所や鴨川の近くに位置する立地環境は、大学や文化施設も多く、京都を知り、日本を肌で感じられる、とても素晴らしい場所だと思います。

こうした伝統や文化の継承を尊んできた京都の景観に溶け込む校舎には、女学校時代の木製階段や手すり、講堂など人の心が通い、たくさんの卒業生が大切にしてきた学び舎に、温もりと歴史を感じました。

この学校を卒業された方々には懐かしい学び舎ではありませんが、生徒や教職員が一日を過ごす校舎など、老朽化がかなり進んでいます。

在校生のみなさんにとっても慣れ親しんだ教室ではありますが、耐震などの安全管理の面から改築の必要性を感じました。

校舎建替えに向け、新校舎完成までの間、仮校舎での学校生活が始まりますが、生徒をはじめ先生方の学校・学習環境が一変することと思います。進学や就職に向けても一日一日がとても大切で、充実した学校生活を送れるような配慮やサポートをしていけたらと思っています。

入試制度の改革を機に、鴨沂高校の長い歴史と伝統の中で培ってきた活動のひとつひとつを大切にしながら、特色ある学校づくりに気概し、建て替え後の新校舎でも前進して行ってほしいと心から願っています。